

2024年度（令和6年度）助成事業への応募に関する Q&A



公益財団法人精密測定技術振興財団

「区分(1)調査・研究に対する助成」への応募にあたり、ご参考ください。
若手研究者の皆さま、たくさんのご応募お待ちしております。

Q 500万円以内（40周年記念事業）とはなんのでしょうか。

A 当財団は1985年（昭和60年）に設立され2025年（令和7年）4月1日に40周年を迎えます。それを記念し、昨年度から大型助成枠を公募しています。
昨年度は14件が採択されました。

Q 250万円と500万円、どちらに応募すれば良いのでしょうか。

A 助成対象期間はどちらも2026年3月31日まで（1年3カ月間）になっておりますので、その期間中に500万円の使用を完了できそうであれば500万円枠にご応募ください。500万円の審査で不採択となった場合に、250万円の審査を受けることも可能です。

Q それぞれの倍率はどのくらいでしょうか。

A 500万円枠を創設した昨年度は多数のご応募をいただきましたので、500万円枠の倍率は10倍程度で、250万円枠の倍率は4倍程度となりました。
ただ、一昨年度までの倍率は2倍弱程度で推移しています。

Q 申請書はどのように書けばよいのでしょうか。

A 研究内容は図やグラフを含めてわかりやすく記載すると良いでしょう。研究の目的は大事です。明確に記述してください。また、将来的に精密測定技術の向上のために役立つことが説明されていると良いですね。

Q 申請書の書き方について、もう少し具体的なアドバイスをお願いします。

A 資金計画書は、できれば具体性のある記述が望ましく、目的・実施計画とマッチしていると計画どおりの成果が得られることが期待できます。

研究の実施計画は具体的に練られていると良いでしょう。

説明図などを用いながら、応募者自身の工夫が明確に表現されると意義が理解しやすいと思います。何所までがすでに達成済みであるかが明示されていると良いでしょう。

また、定量的な見積もりが示されていると研究の位置づけや意義が理解しやすくなります。何の役に立つのか説明があると良いですね。

内容としては、独自性・独創性が高く、手法に新規性があり、有用性がある研究で、チャレンジングな提案であれば評価が高くなります。

技術的な課題を具体的に記述することにより、現段階での研究の位置づけ、今後の展開がより理解しやすくなると考えます。

Q 募集要項に「精密測定技術の分野及びその周辺技術に関するテーマ」について助成を行うとありますが、具体的にはどのような分野が対象なのでしょう。

A 形状、寸法、三次元、光計測・計測標準などの精密測定分野の他にも、生体計測、生体情報、医療機器などの分野、材料・制御・加工などの生産工学分野が対象に含まれます。

Q 応募資格に「東京都に本部のある大学・公的研究機関等に所属する研究者」とありますが該当するかどうかよくわかりません。

A 所属する大学・公的研究機関の本部が都内にあれば、申請者の研究場所・国際会議の開催場所が都外でも応募できます。

例えば、産業技術総合研究所の本部は東京都にありますので応募資格があります。

また、国立高等専門学校機構の本部も東京都にありますので、全国 51 校の高専に所属する研究者も応募資格があります。

しかし、都内にキャンパス、サテライト、専門職大学院があっても、本部が東京都になければ応募資格はありません。